

こうげい

都立工芸同窓会会報 No.182

2023年(令和5年)10月16日発行

秋 Autumn, 2023



東京、渋沢栄一、そして 工芸高校

統括校長 杉浦文俊

今年度4月に工芸高校に着任しました、校長の杉浦文俊です。どうぞよろしくお願ひ致します。都立高校の校長としては、工芸高校で3校目になります。

投稿を歓迎します

- 皆様のお仕事などでの成果、創作、社会貢献など、ご活躍のご様子をぜひお知らせください。
- クラス会の様子もお知らせください。

郵送先：都立工芸同窓会

(住所は工芸高等学校と同じで、最終ページにあります。)

またはホームページのお問い合わせより
ご投稿ください。



前任の池上信幸校長先生の代では、新型コロナウイルス感染症の影響で、多くの工芸高校の伝統行事などが中止若しくは縮小と在校生のみならず同窓会の皆様の期待に
応えることが出来ずに大変残念でした。

しかし、コロナ感染症の影響が落ち着いてきた今年度は、コロナ禍前と同等とはいきませんが、体育祭もほぼ元通りの形で実施、工芸祭に至っては、皆様方にも御覧いただけるようなスタイルで実施する方向で、現在のところ、校内あげて鋭意努力中です。皆様方のお越しをお待ちしております。

さて、私事で大変恐縮ですが、四月着任早々の出来事について紹介させていただきます。着任二日目に同窓会の梶会長さんと理事であり、本校に長年お勤め頂いて

いる神山先生から御挨拶を頂き、その際に大変立派な記念誌「都立工芸一〇〇年の歩み」の御紹介を頂きました。

お二人がお帰りになった後、早速ページをめくると工芸高校設立に関わるエピソードに私の眼はくぎ付けになりました。

工芸高校の初代校長の今景彦先生は、私の前任校である都立墨田工業高校でも初代校長であったことに気づき、思い出しました。

今先生は、工芸や墨田工業だけでなく、東京都における工業教育の発展に多大な貢献をされた方であり、私も僣越ながら、墨田工業から工芸の校長という同じ道を歩ませて頂いたことを名誉に感じると共にその「縁」を強く感じました。

なお、私の先輩である本校第二四代校長の松本光正先生も墨田工業から工芸の校長と同じ道歩んでいます。

次に、渋沢栄一翁。皆さんもよくご存じのとおり、東京だけでなく、日本の産業振興を語るには欠かせない人物であります。大河ドラマでも主人公として、記憶に新しいところですが、私は若い時から渋沢栄一翁の功績に大変興味関心があり、時間があれば、様々な関係した施設等を訪ねていました。

創立が百年を超える企業や団体、学校などには、関わりの大小はありますが、渋沢翁との関係を見ることができ、工芸高校とは、渋沢翁が設立委員会の委

員長として、大きく関わりがあったことを知り、またまた嬉しくなりました。

私が新補の校長として着任した都立北豊島工業高校も創立百年を超えますが、渋沢翁からの寄付金で設立した学校でした。ここにも「縁」を感じました。

この原稿を作成中に、飛び込んできたビックニュース。本校卒業生の松原伸生さん(1984年・D卒)が人間国宝として認定されたという嬉しいニュースです。おめでとうございます。(まだ、松原さんにはお会いしておりませんが、もしかしたら私と同年かもしれない。)

私事で紙面を費やしてしまい、申し訳ございません。しかし、これだけの「縁」がある工芸高校を更に盛り上げるために私は着任したと強く感じております。今後とも皆様方からのお力添えを頂けますよう引き続きよろしくお願ひ致します。

2023年度総会報告

5月20日(土)、母校1階視聴覚室に於いて「都立工芸同窓会2023年度総会」を開催いたしました。総会に先立ち、本会理事で現定時制I科教員の伊藤聖樹氏(2018年・I卒)による報告会を「専門高校生海外派遣事業 アラブ首長国連邦(UAE)研修 同行報告」と題し行ないました。報告会では、生徒が現地学んだ経験を活かし工芸高校の実習やその他、

周りに与える影響に大きな変化が見受けられたことや、自身の高校生活を通し磨き上げてきた感性と新しい刺激を受けて生まれた感性の融合で、全く新しい発見や驚きが生まれることを工芸高校の共有財産として伝えていきたいとの報告がありました。(休憩を挟み「総会」を開催)

総会次第

- 一、開会の辞
 - 二、会長挨拶 梶広幸 氏
 - 三、来賓挨拶 東京都立工芸高等学校 統括校長 杉浦文俊 氏
 - 四、2022年度会計報告 事務局
 - 五、事業報告 梶広幸 氏
 - 六、2023年度予算案承認 事務局
 - 七、閉会の辞
- 全ての議案が拍手にて承認されました。
- 《報告会・総会参加者》
- ご来賓1名・同窓会員33名・総計34名

中京工芸会だより

「転換点」

前回、春の会報に前向きな戦いを五反田会長(1960年・M卒)の闘病への応援歌として投稿致しましたが、残念ながら計報が6月中旬に届きました。中京工芸会歴代会長の元で長い間事務を担い、私への引継「アーター」も完璧でした。「退職した会社の〇〇会やら複数の資料が出て来

て事務として関わっていたことが分かりました。」後から御挨拶に伺いましたが介護休職された息子さんと、お花を喜んで頂いた奥様とお話が出来てよかったです。

同級の安藤副会長(1960年・M卒)が「か月前の電話では元気だったのに!!」二週間前に撮ったと云う遺影が穏やかで優しいのが幸いでした。先に逝ってしまった沢山の想い出を写真に残して頂いた宮島さん(1956年・M卒)と、下山田名誉会長(1948年・M卒)とのお別れが続く、この御三方には中京工芸会としても大変お世話になりました。特にここが「大きな転換点」だと感じています。原稿投稿を機会に皆さまにお知らせ致しますが、それも届かない方々には、ここでお知らせして皆様と共に合掌致したく存じます。

中京工芸会事務局

井上京子(旧姓・今泉 1975年・F卒)



在りし日の五反田会長

関西工芸会だより

関西工芸会の集い開催日時決定

関西工芸会の皆様にとって嬉しい報告をやつとお届けできます。

2020年から3年間3回に渡り開催を見送り、必ず再開が叶う時が来る事を願ひ中止ではなく延期と伝えてきました関西工芸会の集いを、丸山関西工芸会会長と協議の末、開催する事が決定しました。

2023年11月25日 11時30分〜15時

京都駅八条口から徒歩2分の所にある

都ホテル内にあります『和食うおまん

都ホテル京都八条店』

会費は卒業後5年以上経過している方は、男性8000円・女性7000円となっております。卒業後5年未満の方は、年数に応じて割引きをさせて頂いております。

関西工芸会会員の皆様には9月中に出欠の案内を送付しております。もしこの度の会報をご覧になり、案内が届いておらず参加を希望される方は都立工芸同窓会までご連絡下さい。

4年ぶりとなる皆様との再会ですので例年よりも30分開始時刻を早めました。一人でも多くの参加を楽しみにお待ちしております。

関西工芸会事務局

松田健(2001年・A卒)

『工芸50年』を寄贈頂きました

『こうげい』181号(前号)とホームページで「工芸50年史を探しています」の記事を掲載いたしました。早速、機械科6期(昭和29年)卒業の中田実様から4月25日付で、創立50周年記念刊行『工芸50年 東京都立工芸同窓会学校』(全12頁)の寄贈をいただきました。

奥書によりますと『工芸50年』は工芸高等学校が発行した50年記念誌で同窓会は関与しておりませんでした。

工芸の年史関連の発行物は工芸高校発行の『工芸50年』から60年70年80年90年百年百十年迄の記念誌7冊と、同窓会発行の80年史90年史・百年史と『工芸学校・夜間制度80年の足跡』の4冊で併せて11冊が揃いました。今後デジタルアーカイブ化し同窓生の皆様への閲覧提供も検討課題です。



P5~懐旧座談会

同窓生インタビュー

江戸の華 二人の芸妓

金太郎&すず音

高級料亭で唄や三味線、舞踊などの芸を披露する「芸妓」たち。江戸情緒が今なお残る墨田区向島では工芸高校で学んだ二人の女性が芸妓として活躍しています。現在、ミュージシャンで音楽教室を運営している元音楽部の部長、西和（1993年・F卒）が花街に生きる二人の粹な人生を取材してきました。

「これだ！」と確信した芸妓の道

向島・金太郎（1986年・F入）

——工芸在学中から芸妓を目指されたそうですね？



「実は私は工芸高校を中退しています。工芸に在学していた当時、テレビで放送されていた新派の演劇に衝撃を受けました。客に啖呵を切っている気風が良い芸者衆の姿をみて『こんなに粹な女性たちがいるんだ、これだ！』と思い、電話帳で料亭や置屋を調べて直接電話をかけ、この世界に飛び込みました」

——工芸高校に進学しようと思ったのはなぜですか？

「数学や計算が苦手なので普通科や商業科ではなく、やっぱり物作りが好きだったので工業科の工芸高校を選びました。でも、授業がはじまると、製図は計算ばかり。ですが、1年でクラス口、2年でロットリング、3年でCADを習った経験が、お座敷でお客さんとの会話につながり、盛り上がることもあります。工芸高校で学んだことは接客の引き出しとして重宝しています」

——芸妓さんになって嬉しかったことはありますか？

「料亭のお座敷などで踊りや長唄の演奏を楽しんでいただき、お客様から『日本の伝統はまだ残っているんだね、この文化を残していくてくください』と言われた時でしょうか。伝統を守りながら、SNSなどの新しい方法も取り入れて情報発信に力をいれていきたいと思っています」



お座敷でも名高い工芸のブランド力

向島・すず音

本名：宮尾純子（1993年・D卒）

——宮尾さんは工芸を卒業してから、どのような経緯で芸妓の道に進まれたのですか？

「卒業後はいろいろなアルバイトをしていました。ある時、次のアルバイトを探そうと思って情報誌を見ていたら『お座敷係』という求人があったんです。『これは芸妓さんかな？』と思いながら電話をかけました。その当時、既に年齢制限を超えていましたが置屋のお母さんが『いいから来なさいよ』と言ってくれて、今に至ります。工芸高校は意外とお客様もよくご存知で、出身校の話からお座敷での話題が広がることもあります」

——お仕事での苦勞や今後のことをお聞かせください。

「わたしが仕事を始めた頃、16軒あった料亭が今は10軒ほどに減ってしまいました

た。芸妓の人数も、向島は他の花街と比べると多い方ですが百人を下回るようになりました。唄や三味線を演奏するベテランの方たちも少なくなってきました。一度は体を壊してこの仕事を辞めたこともありましたが、戻ってきたからには、唄や三味線、鳴物を専門とする『地方』を目指します。とてもたくさんの曲を覚えなくてはいけないのでお稽古が大変ですが、技術を磨いて芸のある芸妓を目指したいと思っています」

取材を終えて

全く知らない世界に飛び込んだお二人の経験には、どんな職業でも、どんな時代でも、『好きなことを仕事にするために必要なこと』が詰まっています。情報が少なかった当時も、インターネットで多くの情報が得られる現代も、その本質は変わらないのだと感じました。

また、文化・歴史継承の担い手としての意識を芯に持たれているのを感じ、私たち世代が次の世代への橋渡しをしていく時代になってきたのだと改めて考えさせられる機会になりました。（西和）

●都立工芸同窓会のホームページでは、三人が在校当時の思い出や、金太郎、すず音の名の由来などを語り合うインタビュー記事を掲載しています。ぜひそちらもお読みください。

110年を超える歩み

もっと知りたい都立工芸の歴史

府立工芸が誕生した翌々年の1909年(明治42)に赤坂離宮が完成した。それはまさにヴェルサイユ宮殿をイメージし、美術工芸的豪華さに彩られていた。一方で都会生活は機械的生活が徐々に浸透し、そこに必要な調度を工業品として製作する近代産業工芸が社会的に求められていた。

第5回

家具製作科・附属補習夜学校・第二本科

○アメリカ留学の技術者を迎えて

洋風生活の広がりの中でスタート

家具製作科(現インテリア科)

洋風化する生活が求める家具、室内装飾、木製工芸品を生み出せるような新たな技術、知識を教えることを目的として、1908年(明治41)スタート。伝統木工がもつとも花開いた明治末期の精巧な技術の修得と、電動機械による量産という近代工芸の両面が追求された。創立期は組立、彫刻、象嵌の3分科がおかれた。そして各科共通で製品の図案、製図、木材の各種加工法、木工機械の操作などが教えられた。

1919年(大正8)に東京教育博物館(現国立科学博物館)で行われた「生活改善展覧会」をきっかけに官民で各種団体がこぞって始めた生活改善運動は、大正から昭和前期の新興中産階級の間にも広まってゆく。この「生活改善展覧会」には府立工芸の生徒作のライティングビュローや椅子をはじめとした家具も出品され、その啓蒙的役割を果たした。科名も木材工芸科に改め、家具と工芸品の2分科を置

いた。彫刻、象嵌は工芸品にまとめられ、将来の輸出品製作の基礎となる技術の修得を目指す、わが国初の木材工芸の教育機関となった。

○職工の技術訓練と教育訓練の場として

早期から開始

附属補習夜学校・第二本科(現定時制4科)

1910年(明治43)に府立工芸附属補



1953年(昭和28)年全・定合同運動会

習夜学校を開始。当時の学校案内書の掲載からみると、4月、9月の2回に募集し、6ヶ月の短期の職業訓練および普通科の補習を目的としている。学校創立から3年しか経ていない時期に、早くも社会人の補習の場も設けようとしていたことは注目される。1917年(大正6)附属工業補習学校、1922年(大正11)併設実業夜学校と発展し、第二本科の誕生を促す流れとなっていく。工業補習学校の科目制からは、府立工芸で教えている各種工芸のほかに、ブリキやセルロイドの玩具製作も扱われていて、輸出品となりだした東京の玩具業のバックアップもしようとしていたことがわかる。

1931年(昭和6)4月1日、第二本科が誕生した。4年制で、金属工芸科、精密機械科、木材工芸科、製版印刷科の4科。卒業資格は本科と同じである。当時、夜間部で昼間部(本科)と同じ卒業資格が得られる中等学校はほとんどなかった。

1948年(昭和23)第二本科夜間部は、東京都立工芸新制高等学校定時制として新たに発足した。1950年(昭和25)から民間業者による食堂経営が始まる。一度、1957年(昭和32)に廃止され東京都による工芸高校での給食が開始されたが、1988年(昭和63)からは再び民間委託となった。

工芸祭は1965年度から復活され、全日制、定時制共通の場が開かれた。体育

祭は合同開催であったが、1961年度からは定時制単独となり、1982年度までは体育祭と球技大会の隔年開催になった。1983年度からは、球技大会の「体育大会」となる。生徒会活動や部活動、資格取得や技能検定なども積極的に取り組まれていく。

伊東久江(1985年・F卒)

参考文献 図版出典「工芸学校・夜間制度80年の足跡」都立工芸100年の歩み

技術資料の制作

- 取扱説明書
- マニュアル
- 翻訳
- テクニカルイラストレーション
- 3D
- 音楽
- 通販

PLANNING CENTER
STATION.M
有限会社ステーション.エム

- Instruction manual
- Service Manual
- Translation
- Technical Illustration
- 3D
- Music
- Mail-order selling

有限会社 ステーション・エム
代表取締役 細江 邦雄(M41)

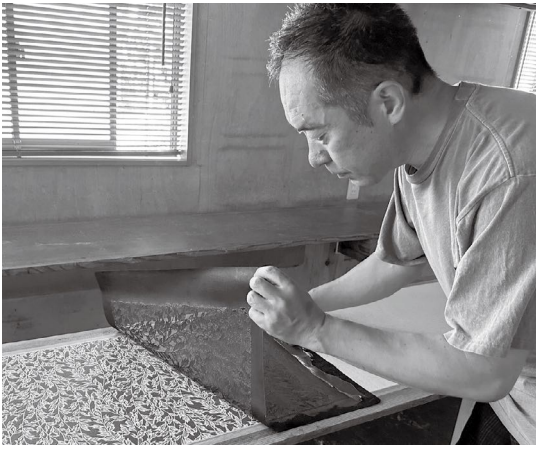
本社 〒162-0828 東京都新宿区袋町25細江ビル
電話 03-6280-8455 FAX 03-6280-8456
http://www.station-m.co.jp/ e-mail: hosoe@station-m.co.jp

校友の活躍

松原伸生氏(1984年・D卒)が重要無形文化財保持者(人間国宝)に答申されました。

国の文化審議会は型紙を用いた染色技法「長板中形」を国の重要無形文化財に指定し、松原さんがその保持者として重要無形文化財保持者(人間国宝)に答申されました。「長板中形」は江戸時代から続く型染技法で大紋(大形)と小紋(小形)の中間の大きさの模様型なので「中形」と呼ばれています。主に浴衣地を染めるものです。

松原さんは、2014年「日本伝統工芸展」で高松宮記念賞受賞、2021年には紫綬褒章を受章しています。



長板中形着尺制作中の松原さん

第57回日本伝統工芸染織展 (日本橋三越本店)

2023年6月7日〜12日
日本伝統工芸染織展に校友2名の作品が
出展され松原伸生氏がMOA美術館賞を
受賞されました。

松原伸生氏(1984年・D卒)
MOA美術館賞



長板中形着尺『蕩文』



紬織着物『光の窓』

第45回日本新工芸展 (六本木・国立新美術館)

2023年5月17日〜28日
日本新工芸展に校友4名が出展され尾澤
勇氏が彫刻の森美術館賞を受賞されました。

尾澤 勇氏(1982年・A卒)



『残り雪ー春のきざし』

田中照一氏(1964年・A卒)



『無彩色の箱』

学生選抜展部門

森島 壮氏(2023年・A卒)



『祈り』

谷尻正太氏(2023年・A卒)



『孤独』

第69回創型展(上野・東京都美術館)

2023年5月20日〜27日
創型展に校友3名が出展されました。



渡邊賢二氏(M科・元教員)

『八大童子(六童子)
恵喜童子 清浄比丘童子 烏俱婆識童子 制吒迦童子 矜羯羅童子 恵光童子』

故佐野一義氏(1942年・F卒)

『悦子像』(1994年作品)



1995年(2022年4月作品絶刻)

神山智子氏(1972年・D卒)



『帝釈天騎象像』

第51回伝統工芸日本金工展

(千住橋戸町・石洞美術館)

2023年5月20日～6月8日

伝統工芸日本金工展に2名及び21+部門に3名の校友が出演されました。

大沼千尋氏(1970年・A卒)

・切嵌花器『白と黒の連山』(写真1)

氏家幽水氏(2010年・A卒)

・銀急須『零』(写真2)

21+部門

岩崎祥子氏(2022年・A卒)

・純銅鍛金薬缶『亀』(写真3)

木本一誠氏(2022年・A卒)

・蠟型鑄銅置物『ぐあー』(写真4)

小島彩由佳氏(2022年・A卒)

・象嵌小物れ『居眠り』(写真5)



写真5



写真3



写真1



写真4

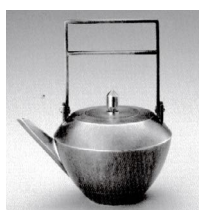


写真2

第63回東日本伝統工芸展

(日本橋三越本店)

2023年5月17日～22日

東日本伝統工芸展に校友3名の作品が出演されました。

松原伸生氏(1984年・D卒)

・長板中形着尺『重ね菱つなぎ文』

鈴木ゆき子氏(1974年・D科卒)

・紬織着物『連翹の頃』

大沼千尋氏(1970年・A卒)

・接合花器『KUNET』

第61回日本現代工芸美術展

(上野・東京都美術館)

2023年4月19日～24日

春山文典氏(1964年・F卒)



『巡行』

第97回国展(六本木・国立新美術館)

2023年5月3日～15日

安富信也氏(1956年・D卒)

・『賛歌—旧約聖書詩篇98より』

グラフィックアーツ科

OB・OG 展示開催中

9月15日より3月初めまでの約半年間、

母校OB・OG展示ギャラリーにてG科の展示が行われています。

出展は、H25佐藤由伽理さん・H30佐藤海さん・R3成見りようさんです。

ポスター、パッケージ、冊子デザインなどのグラフィックだけでなく、アトイペントの運営など様々なOB・OGの活躍の様子を是非ご覧下さい。

展示は、来年の令和6年3月8日まで

の予定です。



展示風景、1階卒業生作品展示ギャラリー

事務局より

訃報

前回の会報(181号)以降、本会宛正式にご連絡がありました方々は、次の皆様です。ご冥福をお祈り申し上げます。

○ 内は逝去された日です。

庄司三郎氏	S 13 M 卒 (R 4・12・17)
菅原鉄男氏	S 16 A 卒 (R 5・3・16)
芝原秀夫氏	S 18 A 卒 (R 3・8・9)
杉山駒吉氏	S 18 A 卒 (R 5・3・17)
赤木正民氏	S 18 三本卒 (R 4・6)
林 國雄氏	S 21 M 卒 (H 30・3・22)
望月徳夫氏	S 22 二本卒 (不明)
田島三郎氏	S 24 A 卒 (R 4・2)
西田三郎氏	S 25 A 卒 (R 5・1・1)
杉山博吉氏	S 25 M 卒 (不明)
田中聰行氏	S 25 F 卒 (R 5・1・9)
樋川彰司氏	S 27 A 卒 (R 4・11)
永田義雄氏	S 27 D 卒 (R 4・7・24)
渡邊 眞氏	S 28 M 卒 (不明)
岩崎友治氏	S 28 D 卒 (R 5・3・23)
松田 襄氏	S 29 A 卒 (R 4・11・21)
山田徳良氏	S 30 M 卒 (不明)
古木栄一氏	S 34 A 卒 (R 5・2・8)
石川昭夫氏	S 34 M 卒 (R 5・6・30)
須坂嘉允氏	S 34 M 卒 (R 4・10・23)
早川 勝氏	S 34 M 卒 (R 5・3・8)
五反田稔氏	S 35 M 卒 (R 5・6・16)
島田佐代子氏	S 35 D 卒 (不明)
五十嵐茂氏	S 37 M 卒 (R 4・8・13)
畔上八寿男氏	S 42 F 卒 (R 4・12・22)
橘 正春氏	S 44 A 卒 (R 5・5・11)
橋本貴志枝氏	S 47 A 卒 (R 5・1・26)
富澤章一氏	S 52 P 卒 (R 3・11)
田中健夫氏	S 53 A 卒 (R 4・6・30)
佐藤 智氏	H 22 I 卒 (不明)

一般寄附ご芳名

4月1日以降7月31日まで、ご芳志をお寄せいただいた方々は次のとおりです。

寄付金額45万1500円です。ありがとうございました。(順不同、敬称略)

笠井伸枝、板垣秋司、中代源次郎、和田義幸、木下幸秀、平野堯久、山田栄二、池田正弘、馬場和夫、小林朗、亀井格一、千石精一、渡辺昭、木村ふみ子、萩原勝美、原田雄一郎、内田一雄、宮崎忠夫、林哲三、数野博久、橋正春、松本七五三、齊藤誠、浅岡輝彦、服部綾佳、西多玲奈、斎藤シツ工、山崎邦男、石川進造、矢吹郁雄、櫻井洋一、山内勲、小林衛亮、山本知二、原田俊夫、鈴木陽子、浅井将治、時田桂代、福島彰生、石毛多喜男、間中辰男、若松延男、小佐々憲、佐藤幸夫、不二山伯、原田俊夫、笹沼健一、岩花幸信、高橋健、横山一雄、鈴木良和、渡辺昇平、三木弘志、桜井久喜、神山隆夫、久保木聖子、久保木秋徳、佐野史弥、大塚晃啓、羽切美代子、吉田積人、落合忠、鈴木康雄、春山文典、五十嵐賢治、田中稔、峰尾武、大野礼奈、田辺廣、根本英明、林秀雄、濱田眞和、徐博宇、大野慶一、中村保弘、石田武史、石川孝史、小泉由美子、肥沼孝明、服部眞澄、鈴木幸男、井上伸行、関宏二、谷道和博、渡部なお、青山龍雄、清水昭、丸山士郎、片岡良亮、西田耕一郎、大野武夫、高井四郎、宮森隆志、加藤泰弘、市原博信、内山孝、小林衛亮、山本知二、二反田稔、飯沼勲、大澤章男、田島悌彦、明治香保里糸永彩乃、井戸健輔、荒井拓哉、齊藤文一、渡辺隆司、三田村幸治、猪俣新治、湯沢宋江、赤坂忠男、辻丸佳代子、小宮央、伊東久江、加藤勝巳、梶広幸、齋藤文仁、高橋裕次郎、長堀映司、高瀬明子、井上京子、宮崎忠夫、山田肯佑、大場康博、大山栄一、帆足宗二郎、土屋秀幸、林佩誼、駒村武夫、南部昌宏、大橋伸行、矢島三男、尾高好夫、野口桜、大賀勉、井野上一寿、井出賢一、宮尾純子、滝勝彦、佐藤理生、山田亜希子、川上三恵子、高田宏樹、橋本貴志枝、鈴木敏夫、松田桃紅、新井徹夫、石坂安男、古木嘉雄、宮川武、串田恭男、辻野太郎丸、血矢昌之、高木國弘、戸原正之、久保田晴彦、坪井康一、塚本雅一、

内田建夫、稲葉暢夫、坂巻亨、佐竹進、岡野哲夫、安藤則子、山口博幸、阿部栄子、今井定義、海野美和子、市原美、大槻幸雄、大沼千尋、隅田智秋、本多和己、西村健二、深谷浩司、富山桂子、関野美貴子、石井正美、横山麻里、松本礼、小林紀之、野村敬子、岩本有未、高田愛子、中村友美、根岸梨奈子、神詩織、中嶋冴子、柏木健志、平岡花絵、東本翔龍、谷中咲菜、村井洸太、冲聡太郎、齋藤道世、深谷日向、金子武司、前川政幸、山田洋一、荒木勝義、岡村行康、中川健一、久保孝雄、高田延子、遠藤純生、伊藤寛耶、高橋萌、橋本富一、森信武、中田一郎、石川純一、猪俣廣己、関根幹夫、鈴木信英、高橋孝雄、丹勝也、南澤英雄、中野信道、佐野勝彦、福島伸三、細江幹夫、市川甚一、井部誠二、吉澤政男、横倉敬一、上田幸裕、田中敏活、富田光明、尾形昌俊、小川智敬、岩本重雄、清水義之、菊島義弘、若刈忠、北沢幸子、宇都木俊徳、高松麻美子、坂本恭朗、五十嵐哲則、塚田大介、千葉裕司、沼田春香、藤井風太、小林泰史、今野和紀、横沢厚美、猪俣佳子、多々見草太、小島風乃、大垣諭史、小坂未有、金澤静夫、真壁功英、神戸道夫、長沢伸和、間瀬博司、駒村秀則、佐々木昭三、石橋行雄、田中和行、前田泰三、澤田泰雄、高田和正、石原健一、坂本克一、岡田隆、児玉正子、壬生恭輔、田中達夫、三上司郎、後藤政弘、小林三郎、中川健三、堀勝美、大澤幸一、金子義明、中村雪夫、寺田久子、三浦昌男、櫻田幸代、高塩廣之、時澤洋一、登崎厚子、宮田潤一、三浦孝子、海老澤友、山内映李、野極千尋、野田康平、有澤裕、田島香音、高橋正樹、安田政敏、加藤悦郎、辻口悠成、奥村陽二、正木栄一、田島勝弘、伊藤滋男、中西照夫、長岩章、田中輝一、中島一光、二ツ森敦子、磯茂乃、柿沼浩、篠崎安夫、千川弘、香高広文、渡辺欣哉、佐藤幸江、山本將英、福田善志、杉野文彦、芳田賢明、仲三河諒、佐々木安英、岡子綾香、田中祈愛、石崎元晴、小宮滋、新村富雄、本田允秀、油井進、吉浦誠治、白井勝司、佐藤正治、梶英雄、大平勝哉、平田昌一、古平修一、中山龍之進、大久保和夫、吉田和子、鈴木理継、政岡美智子、山本やす子、渡部トキエ、松田克己、松田繁美、国本好子、植木照子、小宮茂、葉山夏雄、近藤平蔵、中山令子、平野和子、廣井成男、小野崎昇、宮崎敬子、若本正子、鈴木守、鈴木由紀子、瀧田由美、宇田川政和、江連誠、菊島珠江、

村上千晴、吉野トミ子、佐藤めぐみ、高橋里紀、古谷芳、鶴飼千春、若山あや、中野玲、市川花、松枝磨、小熊麻彩音、山崎順子、酒井寛、長谷川栄、小池博、曾我部上、久保田晴彦、升谷和久、野島進、山口博幸、生貝文人、村田恵子、小宮富士夫、前田竹明、阿部達夫、矢島政幸、松岡道夫、野永由美、中村勇人、奈良本光治、能登崇行、徳宮陽子、松原美穂、宇井維久美、小川光、石川東吾、野中寛奈、服部正、加藤勝久、井上真介、高橋正文、山口治夫、杉本良三、藤原高遠、栃本靖男、布施達也、佐藤正、丹野弘、小林佑光、永野間輝久、田中秀、平光和人、松井辰弘、南繁三郎、安藤孝久、金井昭三、飯島饒、森實、太田公平、嶋村邦昌、大曾根正彦、堀田喬夫、津田友政、矢ヶ崎敏和、黒木賢治、九合謙一、荒井彰一、小口輝夫、尾崎光雄、山林愛実、佐藤彩香、久保田裕之、石倉孝、長澤政治、池野赫夫、恒成芳郎、大川浩一、桐淵典記、古澤貞男、中村一夫、池辺武彦、成本徹、福田友美、森谷延周、吉口一広、田口洋夫、児玉正子、松井眞矢、卷崎勝、岡田里美、田中芳貴、田中沙智、村上由香子、本間千晴、植村明恵、星川輝成、水谷紗耶、岡部隆史、長谷川奏、渡會郁香、ウイinston健治郎、関根伸司、村奈嘉義雄、村山幹男、真島正雄、羽生宏行、芳賀昭正、渡辺拓也、萩原功三、渡辺昭順、永田忠史郎、佐味真義、橋本恵光、所和男、池田博、田中輝一、寺村英朗、大井三喜男、山崎真子、上原伊織、金素希、平田琴、小平確、伊藤光夫、油井進、猪俣達夫、穴吹昭勝、横田修光、山田寿美、小田治郎、佐々木健、植野弘、櫻井明子、土方浩克、井上文雄、紅林正司、橋場信男、三日月康男、野藤和子、大野早苗、永井裕明、森下理恵、山岸政彦、久世佳史、野村岳、村本那子、水口咲、山根歩海、今木陽菜、里見伸暁、菅原鉄男、斎藤慧、久保田晴彦、原典生、大橋新介、田口寿恒、杉本勉、藤井喜代子、山口博幸、石井三樹郎、堀越敏晴、長井豊、山田敏雄、関口信幸、三橋宏之、地濃正明、善養寺幸子、石井あづみ、松田健、佐藤充俊、氏家美佐、福田佳代、上野春海、藤本威、高木美、高木家守子、原和男、庵隆、林正二郎、中村高久、籠谷雅博、松下治正、今野健三、河合泰雄、渡辺義太、北田孝志、恩田隆志、長井英太郎、小島毅、西井和男、鈴木吉武、吉田英昭、宮内捷、服部一、上床亦、村林喜貞、松井重欣、萬羽進、坂巻謙一、工藤精一、保科和

夫、宇都木邦明、吉田光男、松本実、木崎雅江、紫藤竹夫、須田賢司、林正清子、神山智子、武田和之、平井清美、刀根理佳、石川時彦、伊東久江、岡田里美、安田政敏、三瓶正一、其田卓三、戸矢雅道、中島隆、和田勝、川英利、澤木武雄、村尾隆、田中輝一、亀井正弘、飯塚邦雄、萬澤佐多子、石川勝、福島潤、中村輝雄、松村金太郎、杉浦俊和、多田洋一、森田華子、池田修一、清水和男、南伸宏、大林真理子、鈴木まゆみ、金子秀行、松原宏二、塩田真梨奈、齊藤愛、椛沢知里、若井昌代、鈴木万里子、筒井健郎、畔柳明彦、善養寺幸子、若下彰子、佐藤智美、五十嵐智則、皆川幸子、蟹井伸章、佐藤弘美、塩田廣恵、清水雄一、田中菜美子、関奈津美、永坂景子、井部早苗、本庄美穂

Best Brave Benevolent

可能性を実現。未来づくりはおもしろい。

レオナルド・ダ・ヴィンチ工房をめざして 医療器の開発に取り組んでいます。

SOFKEN 株式会社 ソフケン

3Bの贈り物



母校だより

全日制デザイン科

「都立工科高校ドリーム・フェスタ」

リーフレットにイラスト採用

9月30日(土)開催の都立高校PRイベント「都立工科高校ドリーム・フェスタ」



のリーフレットに、全日制2年D科の相澤洋子さんのイラスト作品が採用されました。当日は本校の相談ブースやワークショップを実施し生徒お手製の缶バッジも配布。

東京都教育委員会発行冊子に

全日制・定時制の作品が

表紙と挿絵で採用決定!

東京都教育委員会より発行されている『令和6年度東京都立高等学校に入学を希望する皆さんへ』の冊子の表紙に、定時制4年G科・平岡布由さんのイラストが見事多くの応募作品の中から採用されました。また、挿絵には、全日制2年D科の小林さん、岡田さん、相澤さんの3名の作品が採用されました。



採用イラストを使用した表紙

多摩美術大学の高大連携授業に

定時制の生徒が参加しました

7月15日(土)、8月3日(木)、4日(金)の3日間、多摩美術大学主催の高大連携授業に、定時制1・2年生の希望者9名が参加しました。7月15日は講義講座とオープンキャンパスに参加し、8月3日と4日は日本画・銅版画・木版画・情報デザインのコースに分かれて実技講座を受けました。

多摩美術大学の施設・設備を利用して、画材道具や素材の扱い方、技法や制作方法などについて教えていただき、それぞれの作品制作を行いました。初めて触れる道具や技法の楽しさ・難しさを体験し、制作を通して他校の参加者とも交流ができました。とても濃密な時間を過ごすことができました。



多摩美術大学主催・高大連携授業の様子

2023年度「工芸祭」

10月28日(土)・29日(日)の2日間、母校で工芸祭が開催予定です。詳細は、都立工芸高等学校HPをご覧ください。

全日制

コンペ・大会・コンクール等 入賞

GRAPHIC ARTS

- 第18回 ひろげよう情報モラル・セキュリティコンクール 2022(IPA) 優秀賞:3名

DESIGN

- (冊子) 令和6年度東京都立高等学校に入学を希望する皆さんへ 挿絵採用:3名
- 工科高校PR イベント チラシイラスト採用:1名
- 令和5年度学校要覧 表紙採用:1名
- 第12回 文京区社会を明るくする大会 ポスター原画採用:1名、チラシ原画採用:1名

資格取得・検定合格

INTERIOR

- レタリング技能検定 3級:26名合格

GRAPHIC ARTS

- 色彩検定 UC級:1名合格、1級:1名合格、2級:4名合格
- グラフィックデザイン検定 準1級:1名合格、2級:32名合格

DESIGN

- レタリング技能検定 3級:32名合格、2級:2名合格

定時制

コンペ・大会・コンクール等 入賞

GRAPHIC ARTS

- (冊子) 令和6年度東京都立高等学校に入学を希望する皆さんへ 表紙イラスト採用:1名

資格取得・検定合格

MACHINE CRAFT

- 機械検査技能検定 3級:6名合格

INTERIOR

- 2023年度レタリング検定 2級:1名合格、3級:3名合格

剣道部

- 高体連定通春季剣道大会 男子個人:1名入賞

都立工芸同窓会 会報 こうげい No.182

発行者: 梶広幸 編集: 梶広幸、神山隆夫、磯野祥、伊東久江 デザイン: 中村陽道 印刷所: 大東印刷工業株式会社
発行: 都立工芸同窓会 〒113-0033 文京区本郷1-3-9 都立工芸高等学校内 事務局: 神山隆夫、磯野祥
ご連絡などはホームページの「お問い合わせ」欄からお願いいたします。

<https://www.kogejob.com/contact>

